

『あたり前のことをあたり前に』

辺りもすっかり秋から冬へと季節を移し始め、朝晩は吹く風の冷たさに思わず襟を閉じたくなる候となつてまいりました。

皆様におかれましてはますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、皆様のご理解とご協力のおかげをもちまして、去る11月1日に多くの御来賓をお迎えし、創立80周年記念式典並びに祝賀会を無事終了することができました。

子どもたちの真摯な態度、真面目に周年行事に取り組む様子、話しの聞き方、挨拶の仕方、素直な輝く目。凡そあたり前といわれる日常のしぐさが、多くの御来賓に好感とさわやかで心地よい印象を与え、心のこもった呼びかけや歌声は多くの方々の心を揺さぶったようです。これもひとえに日常の保護者の皆様、地域の皆さまのご声援を受け、子どもたちの心を育む勇気と元気をいただけたおかげと、心より御礼申し上げます。身内身びいきかもしれませんが、一つの行事をみんなで創りあげよう、桃五小の誕生日を1年生から6年生までみんなで祝おうという気もちがひとつになって大きな力になっていたように思います。これも、PTA、保護者、学校支援本部、おやじの会その他多くの皆様のご支援のおかげと存じます。ありがとうございました。

記念式典では子どもたちに次のような話をいたしました。

—————「おはようございます。」

今日は「桃五小八十年の子どもたち」というお話をします。

さていま、皆さんは桃五小の、『八十年目』の挨拶をしました。今日は、桃井第五小学校の、八十回目の誕生日です。ということは、これまで、八十年間、今した挨拶と同じように、雨の日も、風の日も、晴れの日も、雪の日も、それこそ毎日毎日、朝の「お早う。」夕方の「さようなら。」の挨拶を、八十年間の間、たくさん子どもたちが桃五小の暮らしのなかで繰り返し、毎年毎年バトンタッチをしてきました。今、毎日東門の所で皆さんを出迎え見送っていると、皆さんの元気な笑顔がたくさんの人たちに明るさと元気を振りまきます。それと同じように八十年間、楽しい日も悲しい日も、うれしい日もつらい日も、それこそ、毎日毎日、桃五小は子どもたちの元気な挨拶で始まり、元気な挨拶で一日が終わりました。

ところで今日は、さっきも言った通り、桃五小の八十歳の誕生日。

「八十年目の子どもたちである皆さん」と、「桃五小ができたころの子どもた

ち、それこそ六十年も七十年も前の「桃五の子どもたち」だった、皆さんの先輩であるおじさんやおばさんたち」も、今日は御来賓として桃五小に来てくださって、今、一緒にあいさつすることができました。

ずうっと昔、皆さんがまだ生まれるずうっと前に桃五小を卒業したたくさんの皆さんが、今日はお祝いに来てくださったのです。

年齢は違うけれど、みんな「桃五の子どもたち」です。このように、たくさんの卒業生や多くの地域の方々に支えられて私たちの桃井第五小学校は、今年創立八十周年を迎えることができました。現在桃五小に通っている、一年生から六年生までの五百七十四人の友達と同じように、これまでに「桃五小」に通い、たくさんのことを学び、たくさんの友達をつくり、卒業して日本全国で活躍なさっている卒業生の方々は一万六百九十五人もいらっしゃるのです。

そして、そのお一人一人が今、地域の素敵な先輩となり、桃五小の皆さんを応援してくださっているのです。

盆踊りのお手伝いをしてくださったり、餅つき大会を開いてくださったり、そのほか普段の生活の中でもきっといろいろとお世話になっているはずです。

さて、この八十周年という節目の年に、今桃五小で学んでいる私たちは、改めて桃五小と、この学校でこれまでに学んでこられた多くの先輩方のことを思い、桃五小の伝統を大切に、これまで以上に今いる友達を大切にして、ここにいるみんながそれぞれに自分らしく元気いっぱい過ごすことのできる素晴らしい学校にしていきたいと思います。それが、地域の方々、卒業生のみなさんへの、一番のお礼になると思います。

最後になりましたが、これまでに「桃五小を支えてきてくださった多くの皆様の常日頃変わらぬご理解とご協力、ご支援に心より御礼を申し上げますと共に、今後「地域の中の学校」として歩いていく本校にあい変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。